

令和5年度 京都府立看護学校あり方懇話会（第3回） 概要

- 1 日時 令和5年7月27日（木）16時00分～17時30分
- 2 場所 京都ガーデンパレス「祇園」
（京都市上京区烏丸通下長者町上ル龍前町605番地）
- 3 出席者 別紙のとおり
- 4 概要

議題

京都府立看護学校の機能拡充に関する基本方針（中間案）について

<中間案に関する主な意見>

- ・「地域完結型」の医療提供体制の構築が求められており、訪問看護やコミュニティーナース等、地域に根差した教育が充実できると良い。
- ・質の高い看護師の養成には、教員の力も必要。
- ・大学院への進学等、自由自在にキャリアデザインを描くための支援が必要。
- ・訪問看護を集中的に学ぶことができる教育や、多職種と連携し、患者の個別性や生活場面に応じた総合的な看護を提供できるなど、高度な知識・技術を習得した看護師を養成する取組を実施してはどうか。
- ・学生確保のためには、他府県から学生を集めることも大切である。府内だけではなく、府外にもしっかり広報を行う必要があるのではないか。
- ・北部地域における看護職員定着の拠点機能については、中間案に記載されている内容が実現されることで看護職員の定着が進んでいくと思う。
- ・以前は祖父母の看護や介護が子どもの身近にあり、将来の夢として看護師を志す人が多かった。しかし、現在は核家族の影響もあるのか、看護師になりたいと思う子どもが減っていると感じている。人材確保のため、出前事業等により看護師が小・中学校に出向き、看護の仕事の魅力をアピールする取組を実施することが大切であると考え